

2016年11月1日

## スタンダードチャータード PLC 中間経営ステートメント



### ハイライト

スタンダードチャータードPLCは、11月1日付で、2016年度第3四半期に関する中間経営ステートメント(IMS)を発表しました。別段の注記がない限り、「業績サマリー」の表に記載されているように、すべての数字は特別要因調整後ベースで表示されています。

*“私たちが1年前に発表した事業戦略は着実に実行されています。バランスシートは強化され、リスクの集中度が緩和され、効率性が高まっていますが、収益および利益は依然として容認しがたい水準にあります。つねに顧客ニーズを中心に置いて考え行動することが、業績改善につながると考えます。”* ビル・ウィンターズ  
最高経営責任者

### 第3四半期の業績ハイライト

- 営業収益は引き続き安定的に推移し、35億米ドルとなりました。
- その他の営業費用は今年上半期並みの21億米ドルを計上しました。
- 規制関連コストは年換算で10億米ドルを超えるペースが続いています。
- クレジットコストは5億9,600万米ドルと前四半期比5%減少しましたが、依然として高い水準にあります。
- 特別要因調整後の税引き前営業利益は4億5,800万米ドルと、前年同期の1億3,900万米ドルの損失から好転しています。
- 再編関連コストの1億4,100万米ドルは、主に流動化ポートフォリオに関連して発生したものです。
- スタンダードチャータードグループ(以下「グループ」)の税引前利益は1億5,300万米ドルとなりました。

### 戦略の進捗状況

- 第3四半期が終了した後も、流動化ポートフォリオのエクスポージャーの削減が進んでいます。
- 2016年度中に10億米ドルを超えるコスト削減を達成できる見通しです。
- この一年を通じて投資のペースが加速しています。

### 堅固かつ流動性の高いバランスシート

- 普通株式等Tier1(CET1)比率は13.0%と、依然として12-13%の目標レンジの上限にあります。
- 第3四半期中に20億米ドルのその他Tier 1債券、12億5,000万米ドルのTier 2債券、22億米ドルの無担保債券を発行しました。
- 第4四半期には、再編のための施策(最近完了したものと今後行われるものの両方を含みます。)の効果により、CET 1比率は50bps 程度上昇する見通しです。

### まとめと今後の見通し

- 第3四半期の収益、特別要因調整後利益、バランスシートは安定的に推移しました。
- 市場環境は今後も厳しい状況が続くと予想されます。
- グループは今後の規制改革の不確実性に鑑みて、磐石な資本レベルを維持しています。

(本資料は、ロンドンにて2016年11月1日付で発表された資料の日本語参考訳で、すべてにおいて英語版が優先します。)

業績サマリー	2016年度 第3四半期	2016年度 第2四半期	2015年度 第3四半期	2016年度 1月～9月	2015年度 1月～9月
	(100万 米ドル)	(100万 米ドル)	(100万 米ドル)	(100万 米ドル)	(100万 米ドル)
<b>営業収益</b>	<b>3,465</b>	3,465	3,682	<b>10,275</b>	12,177
その他の営業費用	<b>(2,109)</b>	(1,982)	(2,263)	<b>(6,097)</b>	(6,852)
規制関連コスト	<b>(278)</b>	(303)	(237)	<b>(824)</b>	(690)
<b>クレジットコスト・税引き前営業利益</b>	<b>1,078</b>	1,180	1,182	<b>3,354</b>	4,635
顧客向け貸付金・その他信用リスク 引当金に伴うクレジットコスト	<b>(596)</b>	(625)	(1,230)	<b>(1,692)</b>	(2,882)
その他減損費用	<b>(64)</b>	(90)	(161)	<b>(277)</b>	(247)
関連会社利益	<b>40</b>	(10)	70	<b>67</b>	179
<b>特別要因調整後の 税引き前営業利益</b>	<b>458</b>	455	(139)	<b>1,452</b>	1,685
再編関連コスト <sup>1</sup>	<b>(141)</b>	8	-	<b>(256)</b>	-
自己クレジット調整	<b>(164)</b>	(159)	570	<b>(234)</b>	625
劣後債の買戻しによる利益	-	-	-	<b>84</b>	-
売却済み／売却のため保有している事業による利益(損失)	-	-	(1)	-	218
<b>税引き前法定(損)益</b>	<b>153</b>	304	430	<b>1,046</b>	2,528

<sup>1</sup>再編関連コストの内訳は、2016年第3四半期および2016年1月～9月においてそれぞれ、営業収益について1,100万米ドルと1億2,200万米ドル、その他の営業費用について1,400万米ドルと2,400万米ドル、顧客向け貸付金・その他信用リスク引当金に伴うクレジットコストについて1億800万米ドルと3億800万米ドル、その他減損費用について3,000万米ドルと4,600万米ドルです。

第3四半期の営業収益は前四半期比横ばいの34億6,500万米ドルを計上し、年初来の安定したトレンドが継続しています。地域別にみると、中華圏・北アジアの収益は香港の業績改善に牽引されて増加し、ASEAN・南アジアの収益は横ばいでしたが、これらの影響はアフリカ・中東およびヨーロッパ・米州での減収によって相殺されました。

その他の営業費用は、再編のための施策の影響により年初来で60億9,700万米ドルと、前年同期比11%減少しました。第3四半期単独では21億900万米ドルと、第1四半期並みの水準になっています。規制関連コストは2億7,800万米ドルと前四半期から8%減少し、引き続き、年換算では10億米ドルを上回っています。

グループは2016年末までに10億米ドルを超えるコスト削減を達成する見通しであり、各国拠点への投資に充当できる見込みです。グループの今年度の英国の銀行税は約4億米ドルと試算されています。

クレジットコストはこれまでのリスク管理施策が奏効し、第3四半期単独では5億9,600万米ドル、年初来では16億9,200万米ドルと、前年同期比でそれぞれ6億3,400万米ドル、11億9,000万米ドルの減少を示しました。グループが事業を展開している市場の環境は依然厳しい状況ですが、グループは今後もクレジットポートフォリオを積極的に運用していきます。

関連会社の利益は、依然として厳しい市場環境の影響を受けています。

上記の結果、第3四半期における特別要因調整後の税引き前営業利益は4億5,800万米ドルと、前四半期から安定的に推移し、前年同期における1億3,900万米ドルの損失と比べて著しい改善を示しました。

第3四半期の再編関連コストが1億4,100万米ドル計上されたため、2015年11月以来の総額は21億米ドルに達しました。2016年末以降もコストが発生する可能性はありますが、2015年11月に示された、再編関連コストの総額は約30億米ドルに達するという見通しに変更はありません。

グループは第3四半期末以後も流動化ポートフォリオのエクスポージャーの削減を進めており、これまでに(2015年11月発表の経営戦略により清算を予定された)200億米ドルのリスク・アセットのうち約70%が、再編関連コストを大きく増加させることなく整理されています。

(本資料は、ロンドンにて2016年11月1日付で発表された資料の日本語参考訳で、すべてにおいて英語版が優先します。)

顧客セグメント別収益	2016年度 第3四半期 (100万 米ドル)	2016年度 第2四半期 (100万 米ドル)	2015年度 第3四半期 (100万 米ドル)	2016年度 1月～9月 (100万 米ドル)	2015年度 1月～9月 (100万 米ドル)
法人部門	1,596	1,563	1,725	4,743	5,668
コマーシャルバンキング部門	323	349	377	990	1,296
プライベートバンキング部門	125	146	127	386	417
リテールバンキング部門	1,186	1,165	1,199	3,502	3,941
その他の項目	235	242	254	654	855
<b>総営業収益</b>	<b>3,465</b>	<b>3,465</b>	<b>3,682</b>	<b>10,275</b>	<b>12,177</b>

法人部門の収益は、顧客による活発な債券発行、取引額の相対的な安定、および顧客の営業勘定に対するサービス提供に注力したことが奏効して、15億9,600万米ドルと前四半期比2%増加しましたが、これらの効果は外国為替取引に対する需要の減退とコーポレートファイナンスの活動の減少によって一部相殺されました。

コマーシャルバンキング部門の収益は3億2,300万米ドルと、前四半期比7%減、前年同期比14%減となりました。トランザクションバンキング事業およびファイナンシャルマーケット事業における前四半期比の収益増は、ポートフォリオ最適化の取組みによってレンディング事業からの収益が減少したために、一部相殺されました。香港および中国では前四半期より業績が改善しましたが、UAEとアフリカにおける業績悪化によって増収分が相殺されました。

プライベートバンキング部門の収益は1億2,500万米ドルと、前四半期比2,100万米ドル(14%)減少しました。以前に発表された第2四半期における単発的な保険事業の回復分(2,500万米ドル)を除くと、プライベートバンキング部門の収益は前四半期比3%の増加となります。第3四半期中に投資家の心理は改善し、グループはこのセグメントに戦略上のプライオリティを置いて投資を継続しています。

リテールバンキング部門の第3四半期の収益は、先に行われた事業売却とリスク低減の取組みにもかかわらず、11億8,600万米ドルと前四半期比では2%の増加、前年同期比ではほぼ横ばいにとどまりました。ウェルスマネジメント事業における投資案件の売却状況は好転し、預金残高は増加を続け、クレジットカードと個人ローンによる収益も安定しています。グループは、現在リテールバンキング部門の総収益の約40%を生み出しているプライオリティ顧客事業の強化を続けています。地域別にみると、香港と韓国における前四半期比の収益増が、シンガポールとUAEにおける収益によって一部相殺された形となっています。

その他の項目からの収益は、主に資産負債管理-アセット・ライアビリティ・マネジメント(以下「ALM」)と財務活動に関係して創出されたものです。ALMにおける証券売却減少の影響を受けて、収益は2億3,500万米ドルと前四半期比3%減少しました。

(本資料は、ロンドンにて2016年11月1日付で発表された資料の日本語参考訳で、すべてにおいて英語版が優先します。)

プロダクト別営業収益	2016年度 第3四半期 (100万 米ドル)	2016年度 第2四半期 (100万 米ドル)	2015年度 第3四半期 (100万 米ドル)	2016年度 1月～9月 (100万 米ドル)	2015年度 1月～9月 (100万 米ドル)
トランザクションバンキング	722	702	800	2,140	2,517
トレード	300	299	363	904	1,167
キャッシュマネジメント&カストディ	422	403	437	1,236	1,350
フィナンシャルマーケット	714	642	622	2,053	2,339
外国為替	249	264	361	878	1,120
金利	187	174	180	530	652
コモディティ	59	34	61	137	209
クレジットおよび資本市場	112	80	72	267	284
その他の金融市場	107	90	(52)	241	74
コーポレートファイナンス	421	474	517	1,365	1,378
ウェルスマネジメント	387	370	375	1,106	1,269
リテール商品	925	918	952	2,758	3,055
カード・個人ローン・無担保ローン	394	390	443	1,187	1,492
預金	333	327	291	961	902
住宅ローン・自動車ローン	178	183	199	554	601
その他のリテール商品	20	18	19	56	60
ALM	63	112	78	280	326
レンディング・ポートフォリオ管理	93	130	180	373	586
プリンシパルファイナンス	(30)	(37)	(17)	(197)	142
その他	170	154	175	397	565
<b>総営業収益</b>	<b>3,465</b>	<b>3,465</b>	<b>3,682</b>	<b>10,275</b>	<b>12,177</b>

第3四半期のトランザクションバンキング事業の収益は7億2,200万米ドルと、前四半期比3%増加しました。このうちトレードの収入は3億米ドルとおおむね安定、キャッシュマネジメント&カストディからの収益は5%増加しました。トレードの平均残高とマージンは第2四半期から横ばいとなった一方、グループが引き続きクオリティーの高い顧客預金を獲得していることにより、キャッシュの残高は3%増、マージンもやや改善しています。

フィナンシャルマーケット事業の収益は、外国為替取引の減少によって一部効果が相殺されたものの、プライマリー/セカンダリーの債券市場の取引高が増加したことによって、7億1,400万米ドルと前四半期比11%増加しました。

コーポレートファイナンス事業では市場環境の厳しさから予定されていた案件の実行が遅れ、収益は4億2,100万米ドルと前四半期比11%減少しました。

ウェルスマネジメント事業の収益は、投資家心理の改善、およびグループがより富裕なりテールバンキング/プライベートバンキング顧客層を対象としたビジネスに注力したことがプラスに働き、3億8,700万米ドルと前四半期比5%増加しました。

リテール商品からの収益は9億2,500万米ドルと前四半期比おおむね横ばい、前年同期比3%減となりました。グループがより富裕な顧客セグメントを重視したため、無担保ローンの割合が前年より低下しました。グループはコア市場での販売能力を強化するとともに、デジタル化にも投資を続けています。

プリンシパルファイナンス事業は第3四半期に3,000万米ドルの損失を計上しました。グループの進出先の株式市場の低迷が止まらないため投資案件の適正価値がいっそう下落し、年初来の損失総額は1億9,700万米ドルに達しています。

(本資料は、ロンドンにて2016年11月1日付で発表された資料の日本語参考訳で、すべてにおいて英語版が優先します。)

資産の質	2016年9月30日現在			2016年6月30日現在		
	通常事業	流動化 ポートフォリオ	合計	通常事業	流動化 ポートフォリオ	合計
	(100万 米ドル)	(100万 米ドル)	(100万 米ドル)	(100万 米ドル)	(100万 米ドル)	(100万 米ドル)
<b>顧客向け貸付金</b>						
顧客向け貸付金総額	265,837	7,070	272,907	265,293	7,266	272,559
顧客向け貸付金純額	262,036	3,991	266,027	261,670	4,204	265,874
<b>クレジットの質</b>						
不良貸付総額	6,151	6,640	12,791	6,005	6,806	12,811
個別減損引当金	(3,141)	(3,079)	(6,220)	(3,045)	(3,062)	(6,107)
不良貸付純額	3,010	3,561	6,571	2,960	3,744	6,704
CG12口座	1,529	50	1,579	1,247	82	1,329
不良貸付貸倒引当率 <sup>1</sup>	63%	46%	55%	62%	45%	53%
不良貸付貸倒引当率(担保考慮後) <sup>2</sup>	74%	62%	68%	73%	61%	67%
<b>リスク・アセット (10億米ドル)</b>	273	19	292	273	20	293

<sup>1</sup> ポートフォリオの減損引当金を含みます。  
<sup>2</sup> ポートフォリオの減損引当金を含みません。

第3四半期においてはクレジットの質はおおむね安定し、不良貸付総額の合計は128億米ドルにとどまりました。通常事業が抱える不良貸付総額62億米ドルは、不良貸付総額合計額のほぼ半分、貸付金総額の2.3%にあたります。

通常事業の不良貸付総額の増加額1億4,600万米ドル、および、内部信用格付けがCG12の口座における同増加額2億8,200万米ドルは、おおむね、比較的少数の法人部門顧客に関係するものであり、引き続き厳しい市場環境を反映しています。

グループの不良貸付貸倒引当率(担保考慮前)は、第3四半期に53%から55%に上昇し、通常事業のみにおける同比率も、63%へ若干上昇しています。

第3四半期末以後の流動化ポートフォリオの清算により、不良貸付総額は26億米ドル、リスク・アセットは132億米ドル減少する見込みです。これにより、流動化ポートフォリオの不良貸付貸倒引当率は60%を上回るとみられます。

バランスシート主要項目	2016年 9月30日 (100万 米ドル)	2016年 6月30日 (100万 米ドル)	2016年 3月31日 (100万 米ドル)	2015年 12月31日 (100万 米ドル)
<b>バランスシート</b>				
顧客向け貸付金	266,027	265,874	257,763	261,403
顧客預金	382,421	371,698	365,626	359,127
<b>資本</b>				
普通株式等 Tier 1 比率(期末)	13.0%	13.1%	13.1%	12.6%
総自己資本比率(経過措置)	20.5%	19.5%	19.6%	19.5%
総リスク・アセット	292,055	293,226	295,310	302,925
<b>レバレッジ率</b>				
Tier 1 資本(期末)	41,999	40,315	40,741	40,149
総レバレッジエクスポージャー(期末)	744,721	731,131	745,761	729,220
レバレッジ率	5.6%	5.5%	5.5%	5.5%
四半期中の平均エクスポージャー	739,937	729,426	738,595	N/A
平均レバレッジ率	5.6%	5.5%	5.5%	N/A
カウンター・シクリカル・レバレッジ率バッファ	-	-	175	N/A

熟考された経営施策が実施された結果、グループのバランスシートは強化され、流動性が高まり、分散化が進んでいます。グループは第3四半期中に、バランスシートの生産性をいっそう高めるために、法人部門の

(本資料は、ロンドンにて2016年11月1日付で発表された資料の日本語参考訳で、すべてにおいて英語版が優先します。)

中に専任のポートフォリオ管理部署を設置し、各顧客セグメントは、債務の質を向上させることに引き続き注力しています。

顧客向け貸付金その他金銭債権の 2,660 億米ドルは、2016 年 6 月 30 日現在の水準からほぼ横ばいとなっています。キャッシュマネジメント&カストディヤリテールバンキングといったよりクオリティーの高い流動性を生み出す事業への投資が続き、顧客預金は 3,820 億米ドルと、前四半期から 110 億米ドル(3%)増加しました。この結果、グループの預貸率は 69.6%と、6 月 30 日現在の 71.5%から低下しています。

グループの普通株式等 Tier 1 比率の 13%は上半期から 5 ベーシスポイント低下していますが、依然として、グループが掲げる 12-13%の目標レンジの上限にあります。流動化ポートフォリオの縮小その他の再編のための施策により、第 4 四半期には 50 ベーシスポイント程度の上昇が見込まれます。ただし、銀行の必要資本比率を決定する規制改革の行方など、資本に関する懸念事項はいくつか残されています。

全銀行に対する「ピラー(Pillar)2A」の要件は、英国健全性監督機構(PRA)によって定期的に見直されています。グループは第 3 四半期中に、自身に適用される要件が厳しくなり、CET1 の既知の最低比率の要件が 2019 年に 9.2%から 9.8%に引き上げられるとの通知を受けました。グループは引き続きこの既知の最低比率を大きく上回る比率で業務を行い、12-13% の目標レンジを維持します。

グループは 20 億米ドルのその他 Tier 1 債券、12 億 5000 万米ドルの Tier 2 債券および 22 億米ドルの無担保債券と、債券資本市場で引き続き活発に債券発行を行っています。業績改善に注力する戦略に従い、グループは、2006 年発行の 7 億 5,000 万米ドル、6.409%の償還可能な非累積優先株を 2017 年1月に繰上償還するオプションを行使する予定はありません。

## まとめ

1 年前に新しい経営戦略を発表して以来、グループの事業の再編は順調に進捗してきました。各部門が協力して実行してきた施策の効果と優れた顧客基盤に基づき、グループは 3 四半期連続で、安定した特別要因調整後の利益および収益を達成しています。

グループは、厳しい市場環境は今後も続く予想しています。こうした環境の中で、1 年前に策定した戦略は今なお不可欠なものであり、グループは、リターンの向上のために、生産性、効率性と能力を持続的に向上させていく取組みに注力してまいります。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

Mark Stride, Head of Investor Relations +44 (0)20 7885 8596

Julie Gibson, Head of Media Relations +44 (0)20 7885 2434

-----  
本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性・実現性を保証するものではありません。また、本資料には、「予測」「目標」「見通し」「傾向」「計画」「目標」「評価」「意見」「可能性」他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績・計画・目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼性の高い過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものではないことをご確認ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。